

News Letter

琉球大学広報誌

2026 April Vol.37



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

<https://www.u-ryukyu.ac.jp/>

Island wisdom, for the world, for the future.

News Letter Vol.37 2026年4月発行

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

総務部総務課広報係

TEL.098-895-8175 kohokoho@acs.u-ryukyu.ac.jp

【目次】

- 注目! 琉大生 01
 - ・学生ボランティア団体 SPLEA ICVs
- 学長に聞きました 03
 - ・第18代学長 喜納育江
- 次世代研究者紹介 05
 - ・眞榮城 綾香 (理学部 1年次)
 - ・大道 寧祢 (理学部 2年次)
- 留学体験記 07
 - ・城間 颯 (工学部 4年次)
 - ・工藤 日向 (国際地域創造学部 4年次)
- キャンパスライフ 09
 - ・洲鎌 未旺 (国際地域創造学部 2年次)
 - ・琉球大学硬式野球部
- URトピックス 11
- 大学基金だより 13

人文社会学部 人間社会学科 4年次 宮城 野々花

SPLEA ICVsの活動の良いところは、私たちの活動が実際に子どもたちの笑顔につながっていることを実感できる点です。国内では、寄附物集めや募金活動、渡航の際に実施する提案授業の考案などを行っています。そして実際に渡航した時には、私たちの考えた授業を楽しんでくれる姿や、寄附物を受け取ってとても喜んでくれる姿を見ることができました。その瞬間に、私たちは活動の大きなやりがいを感じます。渡航する人もそうでない人も、私たちの活動がカンボジアの教育力向上につながっていることに自信を持っているからこそ、国内での活動も現地での活動も、前向きに取り組むことができている。また、一人ひとりの行動が支援につながっているという実感が、活動を続けていく大きな支えとなっています。



教育学部 学校教育教員養成課程 3年次 中島 菜花

現在、カンボジアでは先生と一緒に教科書を読むだけの授業や、先生が授業を行えないと判断した教科は行わないといった状況が続いています。その教科の中には体育や図工、音楽、科学など、どれも私が小学生の時に楽しみにしていた授業もありました。しかし、現地ではどれも技術や知識、道具がないといった理由から行えていないものがあります。そこで私たちは、子どもたちが楽しみながら主体的に学ぶ姿を通して、現地の先生方が子どもたちのために企画する授業をゴールの一つとしており、学習教材を現地に持参・寄附し、実践しています。「何か特別ですごいことをしているのでは」と思われるかもしれませんが、実際には、子どもたちと一緒に思いきり体を動かし活動することを心から楽しんでいます。私自身も大きなやりがいを感じています。この団体に入って、私の大学生活はとても充実したものになっています。大学で何か熱中できるものを見つけない人にはピッタリです。興味がある方は是非一度、私たちの活動への参加お待ちしております。



注目! 琉大生

● SPLEA ICVs (スプリーアイシーヴィズ) とは

全国6都府県10大学の教員・学生で構成されるボランティア団体「SPLEA ICVs」は、琉大支部の学生サークルとして教育学部の村末勇介教授を中心に、本学では学生26名が活動しています。学生たちは、街頭募金やクラウドファンディング、文房具などの支援物資の回収といった支援活動に加え、カンボジア現地での教育支援として授業の指導案作成や教具づくりなどにも取り組んでいます。村末教授も教員(研究者)の立場から、貧困地域の教育研究や支援活動に参加し、学生と教員が一体となって活動を進めています。

また、SPLEA ICVsの取り組み「すべての子どもに行き届いた教育を～家に眠るリユース品をカンボジアの子どもたちへ～」が評価され、令和6年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰(文部科学大臣賞)を受賞しました。日頃から掲げてきた「Think globally, Act locally」(地球規模で考え、足元から行動せよ)の実践が形となって認められたことで、学生たちのさらなる活動への意欲も高まっています。

今年度は、カンボジアとタイの国境地帯で武力衝突が発生したため渡航が懸念されましたが、現地コーディネーターとの綿密な調整により、安全な地域での支援活動が可能と判断されました。その結果、2月15日～24日にシェムリアップ近郊で実施される学校支援・避難所支援活動に、本学の学生・大学院生10名が参加することができました。

私たちは、子どもたちの未来につながる一歩を確かなものにするため、これからも誠実に、そして情熱をもって活動を続けていきます。

SPLEA ICVsホームページ
<https://sites.google.com/view/splea2012cambodiaeducation>



—学長に聞きました!—



Q. 自己紹介をお願いします。

生まれは沖縄県的那覇市首里です。首里中学校、首里高校を卒業しています。

国際地域創造学部の国際言語文化プログラムでは、教授としてアメリカの文学や文化を教えていました。学長就任以前は、調査研究でカリフォルニアやニューメキシコなどアメリカの西部・南西部を訪れ、就任後初年度にはハワイや台湾に行きました。

Q. 学生時代にやってみたかったことややり残したことは?

サークル活動です。学生時代は日々の勉強やアルバイトで忙しかったので、サークルに入っていませんでした。当時は、友だちが楽しそうにサークルに打ち込んでいるのを見てもそれほど羨ましいとは思っていませんでしたが、きっと学生時代の良い思い出になっているんだろうなと思うと、やってみても良かったかなと思っています。

Q. 尊敬する・影響を受けた人物は?

沖縄戦や戦後沖縄を経験した両親や祖父母から受けた影響は大きかったと思います。家族や恩師以外では、ひめゆり平和祈念資料館元館長の本村ツルさん、元国連難民高等弁務官を務めた緒方貞子さん、そしてアフガニスタンを支援した医師の中村哲さんなど、人生をかけて平和構築や人道支援に尽力した方々を尊敬しています。

Q. 琉大での思い出・お気に入りの場所は?

学生時代、専攻の授業はほとんど共通教育棟3号館で行われていたのですが、3階の廊下の窓から図書館を望むときの夕焼け空が本当にきれいで、それを眺めながら、廊下で友人や先生とよくたわいもない立ち話に興じたことを思い出します。もう1カ所は生協から図書館の横に続く並木道。四季折々の木々の表情が好きです。

Q. 学生の皆さんへ一言お願いします。

学生時代は駆け足で過ぎていきます。知的好奇心をもって、よく学び、よく遊んでください。今の自分の身の丈より少し高いことにチャレンジすることを勧めます。私は恩師から「プレッシャーがないと良い仕事はできないよ」と言われました。プレッシャーの中でがんばった経験はどんな結果でもその後の人生に活かせると思います。

知的好奇心を胸に、よく学び、よく遊び、

そして一歩高みへ挑み、実りある学生生活を。



PROFILE

【経歴】

- 1990年 琉球大学法文学部文学科卒業
- 1993年 米国ペンシルヴェニア州立インディアナ大学 英米文学部修士課程修了
- 1996年 米国ペンシルヴェニア州立インディアナ大学 英米文学部大学院博士課程修了
- 1996年 琉球大学法文学部講師
- 2000年 PhD取得・英米文学(米国ペンシルヴェニア州立インディアナ大学)
- 2001年 琉球大学法文学部助教授
- 2003年 琉球大学大学院人文社会科学研究所研究科担当
- 2011年 琉球大学法文学部教授
- 2012年 琉球大学うない研究者支援センター長
- 2014年 琉球大学男女共同参画室長
- 2015年 琉球大学ジェンダー協働推進室長

- 2018年 琉球大学国際地域創造学部教授
- 2019年 琉球大学学長補佐
- 2022年 琉球大学大学院地域共創研究科担当
- 2022年 琉球大学附属図書館長
- 2023年 琉球大学副理事・副学長
- 2025年 琉球大学第18代学長 就任

- 【学位】 PhD in English (英米文学博士)
ペンシルヴェニア州立インディアナ大学
- 【専門】 アメリカ文学

次世代研究者紹介

- 次世代人材育成事業とは -

科学技術や科学研究、社会課題を解決する研究に対して強い興味関心・適性を持つ小中学生・高校生への体系的な教育プログラムの提供や調査・研究活動および成果発表支援を通じて、次世代の社会を担う人材の早期育成に取り組んでいます。

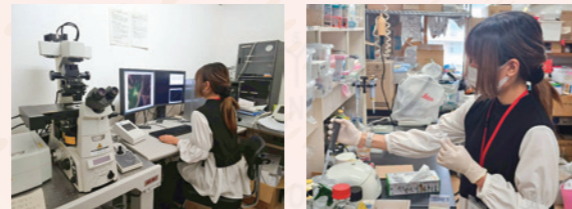


自己紹介

2025年度、理学部海洋自然科学科生物系に入学しました。沖縄出身で、幼少期から自然や昆虫、特にチョウが大好きで、虫採りや飼育・研究に親しんできました。高校生の頃、次世代人材育成事業の一環として「琉大SEARCHプログラム(琉大カガク院)」に参加し、理学部の大瀧丈二教授の研究室に所属したことをきっかけに、本学理学部への進学を決意しました。入学後は沖縄の自然環境や生物多様性を学ぶ講義を楽しみながら、サークル活動では生物部を中心にフィールドでの昆虫採集や生物観察に取り組んでいます。座右の銘は「やらずに後悔するより、やって後悔した方が良い」です。

Q2 研究の中で大切にしていることはなんですか？

研究において私が大切にしていることは「いかに楽しめながら取り組むか」です。本研究は生き物を対象としているため、人間の都合通りに進まない難しさがあります。また、前例の少ない研究であるため、手法から自分で考えなければなりません。思い通りにいかないことも少なくありませんが、その分、新しい発見があった時の喜びや達成感は大きく、生き物の持つ仕組みのすごさを実感し、よりその魅力にハマっていきます。日常生活でも身近な生物をよく観察し「どこが可愛いのか」を客観的に考えることで、細かな特徴に気づけるようになり、研究にもその視点が活かされていると感じています。



Q3 琉大での思い出・お気に入りの場所は？

琉球大学構内の自然豊かな環境がとても気に入っています。休み時間や移動時間にさまざまな生物を観察でき、季節ごとに見られる種類が変わる点も琉大ならではの魅力だと感じています。また、大瀧研究室をはじめ、アルバイト先である風樹館(博物館)・琉大SEARCHラボ(次世代人材育成事業によるサイエンスコミュニケーションスペース)で過ごす時間も大切な思い出で、学びと楽しさが詰まったお気に入りの場所です。

Q4 後輩へメッセージをお願いします。

大学はこれまでよりも広いコミュニティの中で、色々なことに挑戦できる場所です。授業や研究、サークル活動などを通して多くの人と出会い、新しい価値観に触れることができます。人との出会いを大切に「やってみよう」と思ったことには、ぜひ一歩踏み出してみてください。私は1年次のうちから研究に関わったことで、自分の興味や将来像をより具体的に考えられるようになりました。分からないことや不安なことがあっても、先生や先輩方は必ず力になってくれます。琉球大学という環境を最大限に活かし、自分だけの学びや経験を積み重ねてくださいね。やらずに後悔するのは勿体ない!

自己紹介

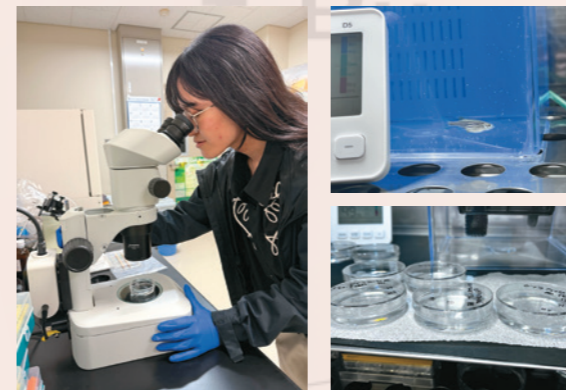
私は、沖縄県読谷村出身で、豊かな自然に囲まれて育ちました。現在は理学部海洋自然科学科生物系に所属し、生物学を広く学んでいます。昨年の夏からは岸本遺贈基金より研究費助成を受け、魚の病気とその対策について学び、研究を行っています。また、高校時代は次世代人材育成事業の「琉大カガク院(現在の琉大SEARCHプログラム)」にてミミズの多様性の研究をしていました。高校時代の活動も含めれば、琉球大学で学んだ期間は通算で4年以上になります。私の趣味は寝る事です。しっかり眠ることで、大抵のことは前向きに解決できると感じています。

Q1 どのような研究に取り組んでいますか？

魚の養殖には、牛や豚に比べて二酸化炭素の排出量が少なく、加えて魚は宗教的制限も少ないという強みがあります。つまり、養殖魚は環境に優しい貴重なたんぱく源であり、日本の養殖魚も世界中で広く受け入れられる可能性を大いに秘めています。

しかしながら、養殖の環境では、同じ種類の魚を狭い場所に集めて育てるため、ウイルスや細菌が広がりやすく、病気がまん延しやすいという課題があります。これまで魚の病気にはワクチンや抗菌薬が使われてきていますが、いずれも有効である一方、コストの高さや薬が効かない菌の出現といった問題もあります。

本研究では、「訓練免疫」という考え方に注目して、研究を行っています。これは、「自然免疫」と呼ばれる体の防御システムが、一度ウイルスや細菌などの病原体刺激を経験すると、次に異なる病原体が現れた際にも強く反応できるようになるという仕組みです。訓練免疫が働けば、魚が様々な病気に対して強くなることが期待されています。そこで魚の訓練免疫を効果的に誘導する物質を探索し、免疫がどのような仕組みで強化されるのかを明らかにし、将来的には、ワクチンや薬に代わる新たな魚病対策の確立に貢献することを目指しています。



Q2 研究の中で大切にしていることはなんですか？

私は研究において、記録をメモとして残すことを大切にしています。実験中は作業に集中するあまり、後で振り返った際に、実験中に気づいた点や教えていただいた内容、操作ごとの日誌等を忘れてしまうことがあります。そのため、重要な内容はその都度メモをするように



おみち ねね
大道 寧柝さん
理学部 海洋自然科学科生物系 2年次



心がけています。こうした記録があることで、実験ノート作成時や結果を振り返る際に、実験の流れや判断の根拠を正確に把握できます。またトラブル発生時にも過去のメモを参照することで、原因や解決策を見つけやすくなります。記録を丁寧に残すことは、実験の正確性、再現性を高め、実験条件の改善、研究の質向上につながると考えています。

Q3 琉大での思い出・お気に入りの場所は？

大学では「アウトドアレクリエーション」という授業を履修していました。その授業では、魚釣りをしたり、火を起こしてマシュマロや焼き芋を焼いたり、染物やかご編みなど、様々なアウトドアアクティビティを存分に楽しめます。

工作や新しい体験が大好きな私にとって、最高の授業でした。非常に人気のある授業ですが、ぜひチャレンジしてみてください。



Q4 後輩へメッセージをお願いします。

迷いがあっても、まずは自分のやりたいことに挑戦してみることをおすすめします! 私はやりたいことが多い分、進路や勉強のこと、自分の理想と現実のギャップに悩むことがたくさんありましたが、正直に言うとも今もそうです。その中で、結果的に遠回りをしたと感じることもありました。それでも、自分の気持ちと向き合いながら選択してきたことで、振り返ったときに後悔のない決断ができたと感じています。自分なりに考えて出した答えであれば、どんな結果であっても、「あのとき頑張ったな」と思えるのではないかと思います。このお話が、皆さんの新しい挑戦のきっかけになればうれしく思います。

研究テーマ

バナナセセリ その不思議な生態にせまる Part 5 WAX分泌経路の探索

まえしろ あやか
眞榮城 綾香さん
理学部 海洋自然科学科生物系 1年次

Q1 どのような研究に取り組んでいますか？

2025年度、ありがたいことに次世代人材育成事業による研究予算の補助(岸本遺贈基金)を受け、バナナセセリというチョウの幼虫が体表に分泌する白い粉状物質(WAX)の分泌経路を明らかにする研究に取り組んでいます。本種は東南アジアを原産とする外来種で、日本国内では沖縄にのみ生息しているチョウです。また、幼虫の体は大量のWAXで覆われており、この性質を利用して葉を巻いて作った巣の内部に防水性の高い空間を作るといって、興味深く特徴的な生態を持っています。しかし、このWAXが体内のどこで、どのように作られ、分泌されているのかというメカニズムについては、これまでほとんど解明されていませんでした。

本研究は中学生の頃から継続して行っており、現在で5年目に入ります。毎年研究を進める中で新たな疑問が生まれ、その問いを次の研究へとつなげてきました。今年度は、蛍光試薬(特定の物質にくっつき、光って見える薬品)を用いた染色や顕微鏡観察により、WAXの分泌に関わる組織や経路の特定を目指しています。研究予算の補助を受けたことで、必要な器具や試薬・観察環境を整えることができ、より精度の高い実験に挑戦できています。



研究テーマ

訓練免疫による魚病対策、病気に強い魚を作るには?



PROFILE

しろま はやて
城間 颯さん

工学部 工学科 知能情報コース 4年次
留学先:アメリカ合衆国 ネバダ大学リノ校

Q1 留学はどうでしたか？

私は2025年8月から4ヶ月間、ネバダ大学リノ校に留学しました。同校は、アメリカにある州立大学で、さまざまな学部・学科を有する総合大学です。現地の大学では、ESL、クラウド、人工知能、サイバーセキュリティに関する授業を受講しました。課外活動では、言語学クラブに参加し、言語学の様々な話題について議論をしたり、ダンスクラブにも参加し、定期的な練習を通じて現地の学生と交流を深めました。一度、大学内の国際交流イベントで空手の型を披露しました。これは、沖縄の文化を発信する良い機会となりました。サンクスギビングでは友人の実家を訪れ、伝統的な家庭行事を体験しました。

現地での学びは新鮮なものが多く、専門分野に対する理解をより一層深めることができましたと感じています。また、海外で日本や沖縄を客観的に見つめ直したことで、日本・沖縄の価値に改めて気づくことができました。

Q2 琉大での思い出・お気に入りの場所は？

お気に入りの場所は、2つあります。1つ目は、図書館横の広場です。東屋があり、座って休憩することもできますし、散歩するにも十分な広さがあります。広場には緑がたくさんあるので、リフレッシュするのにぴったりです。人もそれほどいないので、たまに勉強の息抜きに訪れています。

2つ目は、千原池を渡る球陽橋です。上からの池の眺めが壮大で、夕方や早朝は、特に綺麗です。学内を散歩する時に、必ず訪れる場所です。

Q3 後輩へメッセージをお願いします。

積極的に留学に挑戦してほしいと思います。なぜなら、琉球

大学は留学支援が充実しているためです。例えば、交換留学制度を利用すれば、基本的に留学先の大学に学費を払う必要がありません。学内奨学金制度も豊富にあります。こうした制度がせつかくあるのに、使わないのは勿体無いと思います。

もう1つの理由は、留学の経験は必ず役に立つからです。留学で得られるのは異文化交流の経験だけではなく、コミュニケーション力、ストレス耐性、主体性など様々な能力を育ててくれます。これは人生のどんな場面でも役に立つと思います。



留学 体験記

琉球大学基金の支援を受け、今年度留学した学生を紹介します。

琉球大学基金とは

学生支援・教育研究活動を強化し、地域社会・国際社会へ還元していくことを目的に設置されました。今回の留学支援は「岸本遺贈基金」、「QUEST基金」によるものです。(詳細は14ページ)

自己紹介

私は2022年度に琉球大学に入学しました。高校生の頃から情報技術に対して興味があり、工学部工学科知能情報コースに進学を決めました。在学中は専門科目で情報技術を学びながら、技術系アルバイトも経験し、情報技術への理解を深めました。

趣味はブレイクダンスで、大学ではダンスサークルに所属しています。もう一つの趣味は空手で、小学校の頃から続けています。

AIの技術に高い関心があり、現在はLLM(Large Language Model:大規模言語モデル)を用いた機械翻訳の研究に取り組んでおり、データサイエンティストを目指しています。

自己紹介

私は国際地域創造学部国際地域創造学科4年次の工藤日向です。北海道から来ました。趣味は筋トレをしたり、レゲトンやサルサなどのラテン系音楽を聴くこと、スペイン語などの語学を勉強することです。高校卒業後に琉球大学へ進学し、3年半ほどスペイン語を勉強した後に、ボリビアへ交換留学に行きました。留学からの帰国後は、卒業論文の最終提出や、発表会で忙しい日々を過ごしています。

Q1 留学はどうでしたか？

私はスペイン語力の向上や現地文化への関心から、交換留学制度で約10ヶ月(2024年8月~2025年6月)ボリビアのサンタ・クルス・デ・ラ・シエラ私立大学へ留学しました。2学期を通して6コマの講義を履修し、コミュニケーション概論、スペイン語作文、心理学、経営学などを学びました。クラスメイトや先生方が優しく、質問もしやすく安心して学べました。最終試験やプレゼンでは、「スペイン語が母語でないで易くする?」と提案されましたが、「向上させに来たので大丈夫」と答え、無事に単位を取得しました。

留学中に印象的だったのは、大学での特別な視線や黄色い声援です。ボリビアにはアジア系住民が少なく、大学内の日本人・日系人は4、5名ほどで、日本とは違う環境で長期間生活できたことは貴重な体験でした。

休暇中はアルゼンチンやブラジルも訪れ、現地の食文化や価値観に触れ、世界を広げることができました。

留学の魅力は、日本ではできない経験ができる点です。講義がスペイン語やドイツ語で行われたり、その土地ならではの食べ物や風習に触れられることは特に貴重でした。今後は海外就職に挑戦したいと考えています。スペイン語力を活かし、ラテンアメリカの文化や人々との関わりを深めながら、人生を海外で送ることが目標です。



く どう ひゅうが
工藤 日向さん

国際地域創造学部 国際地域創造学科 4年次
留学先:ボリビア多民族国
サンタ・クルス・デ・ラ・シエラ私立大学

Q2 琉大での思い出・お気に入りの場所は？

琉球大学でのお気に入りの場所は、中央食堂、ヨーロッパコース学生専用の研究室、そして学生寮です。

中央食堂では食堂専用カード(ミールカード)の年間プランを契約し、一日の上限額いっぱいまで、食事をしました。ほぼ毎日通ってお腹を満たしました。食堂が無ければ自炊に時間がとられ過ぎて、講義に遅刻していた可能性もあるので、食堂の関係者の方には言葉にできないほど感謝しています。

そして、ヨーロッパコース学生専用の研究室にもたくさん助けられました。私は家では集中しにくいタイプなので、夜中まで静かな空間として利用できる研究室はとても有意義な場所でした。

学生寮は、衣食住の大学生活のほぼすべてを支えてくれた場所です。もし寮が無ければ、アパートの家賃の支払いなどにもっと苦労していたと思います。

Q3 後輩へメッセージをお願いします。

私が伝えたいことは、「やりたいと思ったことがあるのなら、後悔しないように楽しみながら挑戦してほしい」です。大学生活は人生の中でも特に自由時間が多く、社会人になってからはできないような経験を積みやすい時期だと思っています。また、皆さんには「大学生の時にやっておけばよかった」と卒業後に後悔して欲しくありません。

交換留学においては、琉球大学は南米、ヨーロッパ、アジアなど世界中に協定校があり、学生は交換留学制度を利用して世界中に羽ばたくことができるので、その機会を逃さない手はないと考えています。交換留学や海外留学を強く推奨し、ぜひ忘れられない経験をしてもらえると幸いです。

所 属 国際地域創造学部 国際地域創造学科 2年次
(国際言語プログラム英語専修)

自己紹介

琉球大学に進学したのは、異文化や文学、言語について興味を持っていたため、国際言語プログラムで学びたいと考えたことがきっかけです。趣味は、身体を動かすことで、小学生の頃からバスケットボールを続けています。週末にはアルバイト先のメンバーとミニ大会に出場することもあります。また、ダンスサークルに所属し、琉大祭などのイベントで披露しています。そのほか、ピアノを弾くことや、友人とカラオケに行くことも大好きです。

Q2 琉大での思い出・お気に入りの場所は？

お気に入りの場所は図書館です。1階にカフェのようなおしゃれな場所があるのでいつも、学習スペースとして活用しています。一人で集中して勉強したい時に、オススメです。また、学食に向かうまでの並木道のような場所がとても好きです。季節によって木の変化が一目瞭然なのでそこを歩くたびに「夏だね、冬だね」と友人と話しています。

図書館での勉強

Q1 面白い講義は？

言語学の講義が、第2言語の習得と母語習得との差などについて調べることができるのでとても面白いです。また、ドイツ語の講義は、最初は全くついて行けなかったのですが、単語を知ることですすず意味が分かるようになり、自分の成長を実感できて、とても楽しいです。クリスマスには、先生が考案したドイツ風のパーティーで、みんなでプレゼント交換をして最高でした。



クリスマスパーティー

Q3 後輩へメッセージをお願いします。

大学生になって、いろいろなことに挑戦する時間が増えたなと感じています。今までずっとやっていたダンスやアルバイト、旅行など自由でできることがたくさん増えました。ゆったりする時間も大切ですが、新しく挑戦してみたいことに取り組み、人生の選択肢をたくさん持って欲しいと思います。その中で自分が本気でやりたいと思ったことに出合えるかもしれません。私も今年の夏から海外に留学して、いろいろな挑戦をしてきます。皆さんにとって素敵な大学生活になることを祈っています。



スターバックスでのアルバイト

1週間のスケジュール

月曜日

3時限から5時限まで講義を受講しています。4時限の異文化理解の講義は、ハワイに移民として渡った沖縄にルーツを持つ方の学習をしています。イベント前になるとダンスサークルに行き、みんなで練習しています。

火曜日

2時限終了後、友人と一緒に弁当を食べながら談笑しています。3時限と5時限は、学科の友人と同じ講義を受講するので、とても楽しいです。3時限のイギリス文学の講義は非常に難しいのですが、日本とは異なる文学の成り立ちに興味を持ちながら受講しています。

水曜日

2時限に言語学の講義を受講した後に、友人と学食で昼食を取っています。その後、通学している18時頃からの英会話レッスンまでは、大学の図書館で課題を終わらせています。英会話レッスンの後は、大会に向けて大学でバスケットボールをしています。



バスケットボールチーム

木曜日

3時限から5時限まで講義を受講しています。4時限の講義は、第3言語としてドイツ語を履修しているため、友人と共にドイツ語やドイツ文化について楽しく学んでいます。講義終了後は、スターバックスでアルバイトをしています。スターバックスでは、バリスタとしてのいろいろな経験をさせてもらっています。最近はラテアートにハマっています！

金曜日

将来教員になりたいと考えているため、2時限は教職の科目を履修し、英語での模擬授業を行っています。放課後は公文の先生として働いています。



模擬授業の様子

休日

休日は、憧れだったウエディングのアルバイトをしています。お客様の晴れやかなステージを作るお手伝いをしています。また、家族とお出かけをしたり、友人と集まってピクニックをしています。月に一回の「森のゼミ」では、ドイツ語履修、農学部、教育学部のメンバーが集まり合同で研究活動を行っています。



休日の息抜き

■ 主な活動

私たちはチームの目標である「沖縄制覇」のもと、3月から4月にかけて行われる春季リーグ、8月から9月にかけて行われる秋季リーグの中で琉球大学を含む県内5大学と対戦します。昨年の秋季リーグでは55年ぶりの優勝を飾り、沖縄制覇という目標を達成することができました。現在は琉球大学硬式野球部の黄金期を作り上げ、まずは春季リーグで沖縄リーグを連覇できるように、日々練習に取り組んでいます。

部員数 約40名

活動日時 火曜、木曜、金曜 16:30~
土曜 8:30~

活動場所 琉球大学野球場

https://www.instagram.com/ryukyu_bbc?igsh=bTRva3dvdj2eXgy&utm_source=qr



琉球大学硬式野球部の一番の魅力は青春を体験できることです。青春は高校生までで、大学は人生の夏休みといったようなイメージを持たれる方が多いと思います。しかし野球部ではアルバイトをしながら、真剣に野球とも向き合い自分を磨くことができるので、高校時代のような青春を感じられます。OBからは、たとえ優勝できなくても4年間で培った人間性や忍耐力は必ず社会で役に立つと、教えられます。

また野球部では、部活動だけを真剣にするのではなく、学問も重要視しています。私たちの優先順位の一つは学問です。そのため、学力についていけないから退部をするといった学生は減数にいません。

一人暮らしの学生も多く、多くの学生はアルバイトとも両立し、部活動に取り組んでいます。部活動の後に食事に行ったり、休日にはベンションに行ったりと、息抜きの時間も充実しています。

昨年の秋季リーグの優勝を経験し、地域の方々への支えや応援を強く感じ、より一層春季リーグに向けて努力しています。ぜひ私たちと一緒に青春を体験したい方、学生マネージャー、女子マネージャーとして私たちを支えてくれる方、お待ちしております！気軽にInstagramにご連絡してください。優しく面白い部員が待っています！



UR Topics

〔2025.4.4〕

令和7年度 琉球大学入学式・大学院入学式を挙



〔2025.6.18〕

THEインパクトランキング2025で本学がランクイン
イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」
が「THEインパクトランキング2025」を発表し、本学は国内14位
にランクインしました。



〔2025.6.30 ,7.1〕

令和7年度第1回及び第2回学
生と学長との懇談会を開催



〔2025.8.1〕

「新しい時代のフランク」が発売



〔2025.9.21 ,9.22〕

第74回琉大祭を開催



〔2025.10.14〕

琉球大学養殖技術研究センター(農水一体システム実証エリア)
一般公開見学会開催報告



〔2025.11.27〕

新種の魚を発見! その名もスーパーサイヤン!
～石垣島沖から採集された新種の新種ハゼに小枝助教らが命名～



〔2025.12.9〕

稲本皓太さん(教育学部保健
体育専修4年次)が沖縄
県陸上競技優秀競技者とし
て表彰



〔2026.1.5〕

2026年 学長年頭挨拶



〔2026.2.15〕

第43回沖縄県外国人による日本語弁論大会で
最優秀賞(県知事賞)を受賞



琉球大学統合報告書2025



琉球大学大学案内2026



琉球大学環境報告書2025



進化するぬくもり。



日本郵便
沖縄支社



大学基金だより

吉武晃様へ本学学生への支援に対する感謝状を贈呈しました

2025年10月31日(金)、学長室にて、吉武 晃様への感謝状贈呈式を執り行いました。

吉武 晃様は、岡山市で眼科医をされており、これまで長きにわたり、本学の修学支援基金にご支援くださっているお兄様の登様より本学の基金を紹介され、ご寄附くださいました。

感謝状贈呈後に、喜納 育江学長から、「本学とは特にご縁のない中で、学生のためにご支援いただけたことに、深く感謝しており、非常に心強いく支援だと感じている。未来を担う人材の育成のために大切に活用させていただく」とお礼を述べ、吉武様ご兄弟からは、「経済的な理由で教育を受ける機会が失われてはいけない。自分たちは恵まれた環境で大学を卒業した。だからこそ、学生たちには質のいい教育を受けて、沖縄の発展のために活躍して欲しい」と力強く、温かいお言葉をいただきました。



(左から)吉武 登様、吉武 晃様、喜納学長

令和7年度琉球大学女子学生学術研究及び社会活動等うない奨励賞

2026年2月16日(月)に、令和7年度琉球大学女子学生学術研究及び社会活動等うない奨励賞の表彰式が行われました。本賞は、琉球大学基金である「琉球大学うない女性研究者・リーダー育成基金」による事業の一環として令和3年度に創設され、将来を担う優秀な女性リーダーの育成を目的に、本学の女子学生の意欲的な研究活動や社会貢献等の活動を表彰するものです。

令和7年度のうない奨励賞受賞者は、大学院理工学研究科海洋自然科学専攻1年次の松川夕華さんが選ばれ、審査委員長を務めた木暮一啓理事・副学長(広報・渉外・国際連携)より、表彰状と奨励金が授与されました。

木暮理事から、「将来の研究者として、世界で活躍して欲しい。そして研究者を目指す後輩たちのロールモデルになることを期待している」と激励のお言葉があり、受賞者の松川さんからは、「栄えある賞をいただき、大変光栄に思う」と感謝の言葉が述べられました。

また、女性が大学院へ進学することや研究者を志すことが、いまだ理解されにくく、挑戦しづらい環境にあると感じ

た経験にも触れました。

さらに、研究対象であるウミガメが生まれ故郷に戻る姿になぞらえ、「琉大で学び、世界各地で経験を積み、広い視野を身につけ、研究者として再び沖縄に戻って研究を続けていきたい」と今後の抱負を笑顔で力強く語りました。

将来は次世代の研究者育成にも貢献したいとの意欲も示しました。

【うない奨励賞受賞者】

松川 夕華(大学院理工学研究科 海洋自然科学専攻1年次) 研究テーマ「沖縄県の川を遡上するウミガメの行動解明」

※琉球大学基金

「うない女性研究者・リーダー育成基金」とは

「うない奨励賞」をはじめ、女性研究者のリーダーシップ育成支援や若手女性研究者の研究力強化支援、女子学生の育成・支援等を行います。



(左から)木暮理事・副学長、理工学研究科1年次 松川さん



記念撮影

■芳名簿(令和7年3月~令和8年1月)

本号では、令和7年3月から令和8年1月までに、琉球大学基金へご寄附くださった方で同意をいただいた皆さまのご芳名(五十音順・敬称略)を掲載いたします。

個人

伊佐 淳	石郷岡 政広	上里 直哉	大家 聡樹	笠見 啓一	木本 一史	久高 友大
島尻 艶子	田中 和貴	田中 悠樹	高山 和則	棚原 朗	知念 幸子	知念 肇
土井 歩	東矢 光代	中村 真也	西田 睦	平塚 悠治	深沢 真希	平敷 昭人
本村 真	山崎 木実	山城 広也	吉武 晃	吉武 登	吉本 靖	他

法人

一般社団法人日本医療福祉建築協会、一般社団法人沖縄県軍用地等地主会連合会、沖縄ガス株式会社、株式会社オカノ、株式会社サンシャイン、株式会社ジムキ文明堂、三建設備工業株式会社九州支店、戸田建設株式会社九州支店、有限会社共新電気設備、琉球大学同窓会

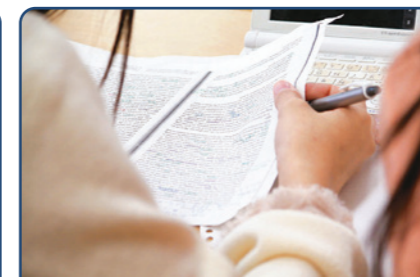
■基金による人材育成・地域貢献

本学では、学生支援・教育研究活動を強化し、地域社会・国際社会へ還元していくことを目的に琉球大学基金を設置し、広く社会からいただいた寄附金による支援事業を実施しています。用途を特定せず琉球大学基金運営委員会承認のもと事業が実施される一般基金と、特定の用途を目的とした以下の9つの特定基金が設置されています。



一般基金

琉球大学全体の教育・研究・社会貢献に活用する基金です。



修学支援基金[税額控除対象]

経済的に修学が困難な学生への支援です。



農水一体型サステイナブル陸上養殖共創拠点形成基金

農業と水産業が融合した新産業創出により、若者が主役となった「サステイナブルな食の未来」を実現するための基金です。



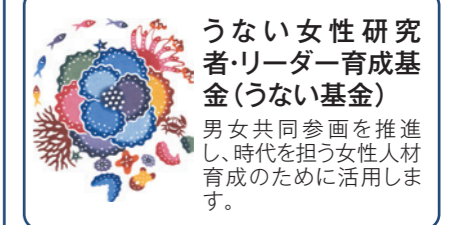
QUEST基金

学生の国際交流を応援・支援するための基金です。



「つながる離島・広がる沖縄」教育未来基金

沖縄県内の企業よりいただいた寄附金を原資として設置した基金です。通信技術・ICT技術等を活用して、離島や沖縄本島北部地域の教育環境の向上を目指します。



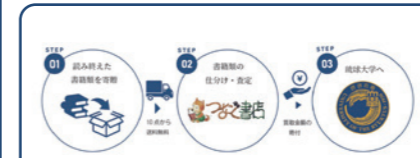
うない女性研究者・リーダー育成基金(うない基金)

男女共同参画を推進し、時代を担う女性人材育成のために活用します。



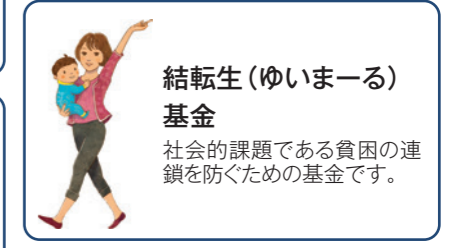
沖縄健康医療推進基金

沖縄健康医療拠点の中核として、教育・研究・診療活動に邁進し、沖縄復興や長寿県沖縄の復活を目指します。



琉大リサイクル募金

古本、DVDやゲームソフトなどの物品を指定の業者にお送りいただくと、その買取金額が琉球大学への寄附となる取り組みです。寄附金は図書館支援のために活用されます。



結転生(ゆいまーる)基金

社会的課題である貧困の連鎖を防ぐための基金です。



岸本遺贈基金

地球自然環境保全に向けた教育・研究活動やグローバル人材養成等を目的とした基金です。

沖縄の安全・安心な暮らしを支えます



設備

- ・ 防火設備定期検査
- ・ 消防設備点検
(設置・改修・工事)
- ・ 給排水設備点検



清掃

- ・ 建築物日常清掃
- ・ 定期清掃業務
- ・ 建築物竣工清掃



警備

- ・ 施設警備業務
- ・ 交通誘導警備業務
- ・ 雑踏警備業務



医事

- ・ 医事業務
- ・ 電話交換業務
- ・ レセプト業務代行

建築物の維持管理は大切!!

★その他、取替・新設も行っております★



間仕切り工事



防水塗装



排煙窓オペレーター装置

- ・ アルミ・ステン手すり
- ・ 金属製建具類
- ・ パンチングパネル・自動ドア
- ・ 排煙窓オペレーター装置
- ・ スロープ
- ・ 軽鉄間仕切り
- ・ トイレブース
- ・ OAフロア・カーペット
- ・ 電動シャッター
- ・ 塗装仕上工事
- ・ 防火扉

◀N.S▶ 日本総合整美株式会社

〒901-0225 豊見城市豊崎3番地26 (本社)
お問い合わせ TEL 098-840-2777

